

東京都人権プラザの視察

—文字起こし—

日時：令和4年11月25日(金)

場所：東京都人権プラザ

【解説員】

(ムラールは) オリンピック休戦に賛同する選手や関係者の人がサインできるように、オリンピックパラリンピックで取り組みとして始めたものなんですね。今回の東京 2020 大会のパラリンピックですね、3基設置されたんですけども、そのうちの一つをこのように常設で展示をさせていただいています。

【三浦 浩様】

私のサインが。何か所かサインしてて、それがまた再利用されるということで。それがまたどこに使われてるのかなと探すのは僕らもサイン書いた上ではひとつの楽しみだったりしてますので。でもここでまた出会えてサイン書いておいてよかったなとつくづく思います ありがとうございます。

【解説員】

こちらのコーナーはですね。スロープや開き戸があって、車椅子などでバリアを体験していただくコーナーになっています。膝の上とか、このアームサポートの上に乗っているかどうか安全な位置にあることを確認してください。車椅子に乗っていらっしゃると、大体目線が100センチから120センチぐらいの高さになります。このあたりのボタンを押すことは、おそらく片手でもできるかと思うんですけども、どうしてもこの高い段の150とか170センチといったところでは、絶対に手が届かない。

【ヨコ ゼッターランド様】

回転をする時どっちを前にして どっちを後ろにしてっていうその一体感を出すための自分の体の動きっていうのを一回考えてやらないとということもありましたし、下がる時、やっぱり車幅分とか自分が座って、この車の車輪分が後ろに出ているということを意外にあそこで下がった時には”うわっ”て隙間があって落ちないかと思ってちょっと怖かったりとか、もう全然何かやっぱり感覚が違いました。

【野村 祐介様】

やっぱり後ろの方に対して、坂道で僕なんかを支えてくださることに対する罪悪感とか、また本当に支えられるのかなという恐怖心がちょっと慣れない間芽生えてしまったりとか。

【二條 実穂様】

やはり体験していただくことによって、例えばドアでしたら、なぜ引き戸が良いとされているのか。っていうような理由もしっかりと解っていくので、体験することとはとてもありがたい。とても理解が深まるんじゃないかと思いました。

【A I】

こちらはウェルカムトイレです。多様なニーズに配慮したどなたでもご利用いただけるトイレです。

【解説員】

このたび、人権プラザの方で発明というふうに言ってもいいのかな、作っています。どんな人にとっても、ウェルカムなトイレというものを目指して、こういったトイレを人権プラザで作ったということになっています。介助シートというもの、ユニバーサルシートというものをつけました。ベビーベッドだと乗れる重量のどうしても制限があって、介護が必要なお年寄りとかも使うことができないし、どうせだったらみんなが使いやすいようなという意味で、このユニバーサルシートというものを導入しました。ここに、実は荷物掛けのフックがあるんですね。フックの位置が目の高さにかなり近いんですね。アイデアとして台を置いてみました。台を置くと足が当たるので、フックに近づきすぎず、目に当たることは回避できるんじゃないかということ。

【高橋 儀平様】

いろんな人たちがかかわりながら議論して、どういう風に改善していったらいいかというそういうプロセスを経たというのは、非常に参加された方々が勉強になったと思う。聴覚障害の方とか視覚障害の方がこのトイレを使うとは限らないと思いますけども、そこを知っていくというきっかけ作りという意味では、色々な人たちがひとつの便房に対してどうしたらいいかねというようなことをやるというのはすごく良くて例えば、東京都でもそれを進めていこうというそういうような方針を持ってやっているところなんですね。

【高田 朋枝様】

ユニバーサルシートに関してはこの間、ちょうど車椅子で成人した方でこういったシートがあるとすごくありがたいというお話を聞いていたので、素晴らしいなと思いましたし、パトランプに関しても今回初めてお聞きした情報だったので、何かこれがいろんなところに増えればいいなというのをすごく感じました。視覚障害者ってたぶん狭いところも好きなのでだから近くにあって、そういったウェルカムトイレと狭目のトイレが近くにあって選択できるようになったら、よりいいのかなと思いました

【二條 実穂様】

皆さんで体験していただくことによって、なぜそれが必要なのかという理由がやはり体感することでわかっていただけれると思うので、素晴らしい施設だなと思いました。

【野村 祐介様】

その体験をする。システムやものじゃなくて、やっぱり体験こそが、よく言う言葉ですけど、体験こそが金というか、だということを今日、車いすの体験を通して改めて痛感しました。

【高田 朋枝様】

こういった形で集まって、実際にその体験している様子を見るとか。それぞれの立場の。意見だったり、体験談が共有できる場もやはり素晴らしいなというふうに思いました。

【高橋 儀平様】

都内でも、いろんなところに人権プラザ的な施設が大きいもの、小さいもの、いろんなところあると思いますので、そこの情報の共有をもっときちんとやって発信してほしい。

【ヨコ ゼッターランド様】

何が大変なのかって頑張って想像しようとしても想像に限界があるといいますか。それを体験することによってこういうことが必要だったんだとか、こういうふうに改善していった方がいいということを、本当に今日は改めて実感しました。

【三浦 浩様】

いろんな人に発信して知ってもらえて、それを今度はまずは東京都の小中学校から取り組んでいってもらったのが全国に行くと、さらにたぶん5年後、10年後には人権という言葉も普通になってくるのではないかな、という発信のヒントをすごく今日はもらいました。